

西上州 「御場山・西ルンゼ」

高橋

【日時】 2007年1月13日(土)

【メンバー】 L高橋・石井・大田原

文字通りの暖冬で、各地の氷結状況が芳しくない中大晦日の偵察の感じから、「頃合いはよし」と判断。多少の不安を抱きながらも現地へ向かう。沢を渡った先の手前のルンゼには薄いながらも、しっかりと氷が着いている。これに自信を得て「西ルンゼ」に。果たしてまだ十分とは言えないまでも、登攀可能の厚さの氷が上まで続いていた。

石井君が取り付くが、今シーズン登り込みが十分でないのか「ふくらはぎ」が張るとかで、何度かのリスティングの末、登り終る。続いて大田原さんが。全長40m強の氷にはまだまだ不慣れか？私のモノポイントを使つての登攀には不安があるのか？チョイ不安定な登りではあったが、健闘の末姿が見えなくなる。この上の雪が着いたナメの小滝は氷が未発達で、アイゼンで岩をガリガリさせながら進む。

F 2はツララの集合体。潔く左の尾根状から巻く。ルンゼからは大岩がすごい勢いで落ちて来て、避け切れなかった大田原嬢の腕に当たるが、大事に至らずほっとする。F 3までも再びガリガリとアイゼンをかき鳴らして進む。

現れたF 3は素晴らしい油氷で、バイルが粘りつく感触に、じっくり氷曝登攀を堪能した。今年も此処に来られた・・・。



F 1 : 40mをリードする石井君。中間点まで氷に厚みがなく、満足な支点がとれない。但し氷は柔らか目で、登攀的には困難さはなかった。



核心部で健闘する大田原嬢。さすが40mの長さに、若干戸惑いを見せていた。



↑ F 2はツララの集合体で、支点に不安があったので、潔く巻くことに・・・。
登攀可能になるにはあと2週間くらい必要か???



↑ナメの沢床には氷がなく、アイゼンをガリガリさせながらの前進を余儀なくされる。



F 3はバイルにまとりつく様な文字通りの油氷で、心ゆくまでのクライミングを楽しむ。
<http://www.tomanokaze.dojin.com/>